

交流活動

今月は、いくつかの交流活動について紹介したい。

まずはまたもや大学訪問についてだが、中北大学を訪問した。中北大学は、太原市の中心から少し離れ北に位置する大学だ。この大学は、省部共建大学かつ省属重点大学に分類される総合大学という点で、山西大学と共通点を持つ。省部共建大学とは、中華人民共和国中央政府の部署とその地方の省が共同で設立運営する地方大学だ。山西大学が山西省と中華人民共和国教育部の共同運営であるのに対し、中北大学は山西省と、国防や国家戦略にかかわる分野を担当する中華人民共和国工業情報化部国家国防科学技術工業局が共同運営するという違いがある。中北大学のキャンパスは山のふもとに位置し、キャンパス内にも木々が散乱し山の延長のような独特の雰囲気を持つ。全体的に平地である山西大学のキャンパスとは大きな違いを感じる。キャンパスの構造は以前紹介した雲南大学に近い。基本的に中国の大学のキャンパスには大きな食堂、スーパー、ホテル、寮など様々な機能がととのっているが、中北大学は市の中心部から遠いためよりキャンパス内に設備が集中している。また、北側には二龍山という、大学に管理を任された山があり、キャンパス側から入り観光することができる。大学の教職員や留学生とも交流した。そして両大学の活動や、留學生活の違いなどについて話し合った。

太原市内にある、新住居の建設地では、ある小学校が主催する、小学生の英語学習の促進や国際感覚を養うことをねらいとしたイベントが開催された。外国語を重点とした教育を行う小学校の生徒やその保護者、教職員、そして何人かの外国人が参加した。私も知り合いに連れられて一外国人として参加した。子供たちと話すだけでなく、子供たちが選んだ中国語の単語を外国人が覚え競うゲームなど、生徒を中心に様々な人々が楽しめる参加型のイベントだ。

山西大学では、国際的な観点で文化の比較などを行う本科の科目を聴講し、討論などに参加した。その科目は、様々な専門分野の学生や留学生が参加する学際的かつ国際的な場となった。その科目を担当する先生も、留学生への教育を直接受け持っている先生だ。我々は、各国と中国の習慣の違いや考え方感じ方の違い、また共通点などを話題に、様々な例を挙げながら熱く議論することができた。このような場は、どの立場の参加者にとっても貴重な機会だと考えている。

杉浦聡太